



文化博物館だより 第196号

2007年11月20日

みなさん、こんにちは。「絵で見る考古学展」の早川和子さんが来館された続報をお届けします。今回は、似顔絵つきサイン会について。そして、文博のピックアップをひとつ。

● 続・早川和子さんが来られました（似顔絵&サイン会）！

講演会の行われた同日、2回にわけて似顔絵つきサイン会が行われました。「先に何割増しか言ってくださればご要望に応えます」と、実物よりちょっと美人・ハンサムな似顔絵（それでも、ちゃんと特徴をつかんでいます！）ができました。お客さんがサインをしてもらった図録を手渡すと、早川さんはささっと筆ペンを使って頭部から描いていきます。復元画では考古の事実を踏まえた緻密な作業が必要になりますが、似顔絵はぱっと見た印象を大事にして短時間で仕上げるほうが出来がよいそうです。



お話をしながら似顔絵が描かれていきます

一番に来られた親子連れの方は、早川さんと握手や記念撮影もされており、お話を伺ってみると今回の展示のチラシを見て初めて早川さんを知ったそうです。「図書館で本を借りてきて見たら、かわいい絵だったので気に入りました」と話していました。



何割り増し・・・？

期間中、メインの『絵で見る考古学展』（『発掘された明石の歴史展』併設）のほか、早川さんの考古イラストができるまでの様子が見られる展示も行っています。12月9日（日）まで開催しておりますので、ぜひお越しください。

● 文博オリジナル一筆箋、登場！！



ひとこと添えるのに重宝します

文博で販売しているグッズの中で、個人的には最もオススメ。先日、一筆箋四種が登場しました。図柄は、江田誠郎氏の作品「鶏」から二種、そして明石城跡から出土した土人形「城」と「鳩」です。江田氏の作品は、この春に小さな展覧会と称した展覧会でみなさまにご覧いただいたものです。土人形は、当館の常設展示室でいつでも見ることができます。小さな資料なので、がんばって展示室を探検してみてくださいね。どうしてもわからない場合は、職員にお聞きください。



中はこんな感じ（江田誠郎「鶏」）